

# 事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	有	電話	042(769)8202
担当部課名	企画部	文化国際	課	
事務事業名	文化行政推進事業(フォトシティさがみはら)		事業コード	35130

1 総合計画における位置づけ

政策名	第5章	輝き魅力あるまちづくりを進めます	事業開始年度
基本施策名	第1節	輝き魅力ある都市の創造	13年度
施策名	第3施策	都市文化の創造と情報発信	

2 実施根拠及び関連法令等

--

3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象(誰、何)	
広い地盤を持つ写真文化にスポットをあて、写真展を中心に様々なイベントを組み込んだ市民参加の文化事業として、総合写真祭「フォトシティさがみはら」を開催する。この写真祭は、全国規模の質の高い写真祭として開催することで、新しいさがみはら文化を全国に発信する事業として位置付けるとともに、市民が優れた芸術文化に触れたり、それぞれの場で参加できる市民主体の事業として位置付ける。		全国のプロ写真家・アマの写真愛好家、市民	
		対象数	
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
実行委員会への事業補助 19,000,000円 写真展 プロの部・アマチュアの部入賞入選作品の展示(プロの部 写真賞1、新人奨励賞3 アマチュアの部 金賞1、銀賞2、銅賞3) 来場者3,987人 フォトシンポジウム プロの部審査員の作品上映と解説、シンポジウム 来場者200人 写真講評会 アマチュアの部審査員の解説による入賞入選作品の講評 来場者86人 インターカレッジ・スライド・スペクトル 大学対抗スライドショー 来場者390人 私のこの1枚 写真教室 巡回展 他		なし	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名	
		計画年次	年度～ 年度

4 評価指標

指標名	さがみはら文化の市外への発信達成率	市民への写真文化の広がり達成率
指標式	掲載された雑誌数 / 主な関係雑誌数 (×100)	市民参加イベント「私のこの1枚」参加点数 / 参加予定点数 (×100)
指標設定の意図	雑誌に掲載された数量により、市外への情報発信の達成率を表す。	市民参加イベントへの参加実績を指標とすることで、広がり達成率を表す。

5 目標と実績

[金額単位：千円]

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度	
	実績	実績	実績	目標	目標	
指標			a	100.0	b	100.0
指標			c	100.8	d	100.0
指標			e		f	
事業費	決算(予算)額		19,000		19,980	
	人員・時間数		2人	2人	3人	
	人件費		11,764	11,764	11,681	
	その他経費					
	合計	0	0	30,764	11,764	31,661
特定財源						

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか			
評価 A ▼	A:達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 100.4%	
	B:一部達成していない(100%> 80%)		
	C:達成していない (80%> )		
a	100.0	c	100.8
b	100.0	d	100.0
×100= 100.0%		×100= 100.8%	
		e f ×100=	
理由:	フォトシヤさがみはらに対して、写真界はもとより市内外から高い評価を得た。		

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か			
評価 A ▼	A:適応している	理由:	本市を取り巻く状況(地方自治体間の差別化や都市としての魅力の創出など)は大きく変化しており、「新しいさがみら」を全国に発信することが求められている。
	B:一部適応していない		
	C:適応していない		

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か			
評価 A ▼	A:妥当である	理由:	実行委員会方式による運営のため、委員の独自性が発揮され、高い効果を生んでいる。
	B:一部妥当でない		
	C:妥当でない		

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か			
評価 A ▼	A:代替の可能性ない	理由:	相模原の認知度を高める事業であり県の代替の可能性はない。
	B:代替の可能性低い		
	C:代替の可能性高い		

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか			
評価 B ▼	A:満足できる	理由:	初めて間もない事業のため、市民への周知度・関心度をさらに深める必要がある。また、実行委員会の運営についての市民の係わり方は工夫の余地あり。
	B:一部満足できない		
	C:満足できない		

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か			
評価 A ▼	A:有効である	理由:	都市文化の創造と情報発信という上位の施策にまさに一致した事業である。
	B:一部有効である		
	C:有効でない		

<p>評価バランスチャート</p>	成果向上の余地	
	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<b>説明:</b> この事業が回を重ねることで、写真を通して相模原を全国に発信することができる。
	コスト改善余地	
	<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない	<b>説明:</b> 企業収益の低迷に伴い、協賛金の増が期待できない中で、補助金額を削減することは困難。

7 総合評価

評価	AA ▼	他自治体の類似事業との比較	北海道の東川町における写真祭と比較して、都心に近い利点を生かした新しい写真祭となっている。
今後の進め方		説明	平成13年度を開催初年度とする新しい事業であり、市内外からも期待が大きい。また、平成14年度には世界に目を向けた「アジア賞」を設け、「新しいさがみはら文化」を全国はもとより世界へ発信していく。回を重ねることで本市の認知度も高まり、本市への市民の愛着と誇りを持たせる効果が期待できる。
<input checked="" type="checkbox"/>	継続		
<input type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

--